Engineer

プラットフォーム設計

21 件の実績

システムの各部分を結び付ける

「プラットフォーム設計」に分類した実績は、稼働するシステムの一部分を示しています。その部分を他の業務につなげるお手伝いをします。 まず全体像を設計し、各部分のつながりと費用を、コードを書き始める前に明らかにします。

サービスを見る お問い合わせ →

比較できる課題を探す

ご自身の状況に近い事例をご覧ください。振り返りでは、技術名だけでは分からない、結果を導いた判断を説明しています。 14部門を支える共通インフラ計画 — 14 共通インフラ計画の対象となった研究部門

14部門を支える共通インフラ計画 お問い合わせ →

14部門を支える共通インフラ計画

研究機関の14部門に関わるインフラ全体の枠組みを設計。柔軟なモジュール、統一されたデータパイプライン、長期的な定着を支える体系的なサポート方針を備えた。

PostgreSQL・MS SQL・BigQueryのデータウェアハウス100個を運用

主にGIS・時系列データを扱うPostgreSQL、MS SQL、Google BigQueryのデータウェアハウス100個を設計・構築・管理し、性能と拡張性を最適化した。

GIS地図アプリの開発を主導し売上を10倍に

GIS地図アプリケーションのソフトウェア開発を主導し、売上を10倍に伸ばして、製品を主要なデータ資産として位置づけた。

フルスタックのGIS地図開発を指揮

PostgreSQL、Mapbox、ReactJS、NodeJSを統括してフルスタックのGIS地図開発を指揮し、統合されたソリューションを提供した。

業務工程の刷新で8,000時間を削減

社内工程を見直し、ソフトウェア構成、システム、日程管理の効率化によって8,000時間を削減した。

地図製品を最初から運用まで支える

2年間にわたり、インフラ、データ処理、地図アプリケーションを設計・開発・支援し、ソフトウェアの提供と運用保守の両方を担当した。

AWSの外へ移し、インフラを整理

海外顧客のインフラを見直し、未使用サービスを廃止して容量を調整し、ワークロードをAWSから移した。創業者の報告では、生産性を損なうことなくクラウド費用を10分の1に削減した。

システムの境界を明確にした海事プラットフォーム

Next.jsのPWAフロントエンド、Go（Huma/Fiber）API、PostgreSQL関数層を分離し、業務ロジックをすべてデータベースに置く、多層の海事プラットフォームを設計した。

PostgresからAPIへのJSONパススルーを設計

PostgreSQL関数が完成したJSONを返し、Go APIがそのまま転送するJSONパススルー構成を設計。中間のアンマーシャリングをなくし、フロントエンドをスキーマ変更から切り離した。

利用者の組織コンテキスト切り替えを構築

クライアントのlocalStorageとサーバー側Cookieへの複製を用いて組織の操作コンテキストを切り替える仕組みを設計し、最小権限の認可を維持しながら管理対象の組織として操作できるようにした。

APIを100%の一致でHuma v2へ移行

HTTP APIの649パス・760操作をFiberからHuma v2へ移行し、サーバーが登録するルートと公開するOpenAPI記述の100%一致を達成・維持した。

PostgreSQL関数中心のデータ層を設計

34スキーマにまたがる1,275個のストアド関数を持つ、PostgreSQL関数中心のデータ層を設計。すべての読み書きをテーブル直接操作ではなく、データベースで実行権限を付与できる関数経由にした。

34のPostgresスキーマに348テーブルをモデル化

専門家、企業、船舶、求人、レビューなどの海事領域を、34個のPostgreSQLスキーマ内の348個の正規化テーブルにモデル化し、SMALLINTの参照値とUUID v7キーを用いた。

Azureインフラをコードとして構築

Bicepで、開発・ステージング・本番の各環境に、Container Apps、PostgreSQL Flexible Server、Front Door/WAF、ネットワークを含むAzureインフラをコードとして構築した。

Next.js 16でSSR・SSG・CSRの画面を構築

SSR、SSG、CSRを意図的に使い分けたNext.js 16フロントエンドを構築。再利用可能な事前取得付きサーバーページ生成処理に移行した認証済みページから、N+1の連鎖的なデータ取得を除去した。

nonce付きCSPでアプリケーションを堅牢化

nonce付きCSP、HSTS、SameSite Cookie、最小権限のデータベースロール、サーバー側の利用権限再検証により、アプリケーションを堅牢化した。

プラットフォームの基礎技術方針を策定

2025年11月のリポジトリ開設後の数週間に、多層構成、データベース中心のデータアクセス、警告ゼロという基礎方針を定め、9か月後も維持した。

数年後も稼働するインフラを構築

社内外のシステム向けに新たなインフラ機能を計画・実装し、数年後も最小限の変更で稼働し続ける仕組みを構築した。

基幹インフラ全体を一から構築

グリーンエネルギー分野のSaaSスタートアップで初期に採用された社員の1人として、基幹インフラ全体と運用工程を一から設計・構築し、急成長の基盤を整えた。

リポジトリで定義するインフラ

12,065行のYAMLにわたる19本のAnsible プレイブックと34個のロールで自社インフラを構築し、すべてのプレイを冪等にして、稼働中のホストを宣言した状態へ収束させた。

小型サーバー上の公開サービス

利用可能メモリー464 MBを設計制約として、512 MB・1コアのホストで自社の公開サービスを運用。gitホスティング、7ドメインのWebサーバー、Tor、2つの代替プロトコルサーバー、不正接続元の遮断を備え、バックアップ自動化は別の実装として扱った。

技術的な取り組みを絞り込む

業務の流れ、既存のインターフェース、変更を必要とする利用者をお知らせください。検証可能な納品内容と、お客様のチームが保守を続けられる引き継ぎ内容を定められます。

料金を見る お問い合わせ →

自社の状況に当てはめる

お使いのシステムで「プラットフォーム設計」がどのように関わっているかをお聞かせください。適したサービスを選び、その業務範囲を定めるお手伝いをします。

サービスを見る

welcome@engineer.company +45 50 10 61 84 デンマーク、コペンハーゲン

このページを持ち歩く 連絡先カード

心を込めて丁寧に制作： D.

CVR 45969703 · Tagensvej 105C, 3. th, 2200 København N

著作権 © 2025 – 現在 · Engineer ApS · すべての権利を留保します。

印刷元： https://engineer.company/ja/categories/platform-architecture/